

「みんなが一体になれた」

アルプス、応援熱く



8回の八戸学院光星の猛攻に湧く応援団。7日、甲子園球場

八戸学院光星高が全国高校野球選手権の初戦で勝利した7日、甲子園球場の一塁側アルプススタンドでは、在校生や野球部の控えメンバーらが熱い応援を送り、グラウンドで躍動するナインを後押しした。(福田駿)

7月の東北大会で優勝しながらも、新型コロナウイルスの感染対策として、自由参加となった全国大会への出場を見送ったチャリデーイング部。高橋未彩妃さん(17)は「私たちは全国大会には出られなかったが、ずっとここで応援したいと思っていたのでうれしい」と笑顔を見せた。

約3000人の応援団は6日に八戸市の同校を出発。長時間移動にも疲れを見せず、3年ぶりの甲子園での勝利が決まると、スタンドは歓喜に包まれた。

「光星のみんなが一体になった感じがした」と話すのは、吹奏楽部の秋山友梨明さん(18)。選手たちのプレーに刺激を受けた様子で、「私たちもこの学校にも負けないぐらいの演奏をしたい」と力を込めた。

この試合では、主砲の野呂洋翔選手(つがる市出身)ら青森県出身選手の活躍が目立った。八戸市出身で野球部2年の風穴大和さん(17)は「先輩たちの活躍に勇気もらった。自分もこれから頑張りたい」と目を輝かせていた。

留守部隊も勝利に歓喜 「選手たちは格好良い」



初戦突破を喜ぶ在校生=7日、八戸市の八戸学院光星高

全国高校野球選手権大会で青森県代表の八戸学院光星が1回戦に臨んだ7日、八戸市の同校では空手道や陸上競技などの運動部員約60人が集まり、テレビ画面の向こうで頑張るナインを応援した。約2時間半の熱戦の末に勝利が決まると、健闘をねぎらい、上位進出を期待する声が上がった。

序盤は両チーム共に走者を出しながら決め切れないうちも野手からも勝利への執念、気迫を感じた。こんな大きな舞台でプレーしている選手たちは格好良かった。皆さんは光星の誇り」とたたえていた。(澤田淳一)